

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和2年 12月 25日

事業所名 障がい児通所支援事業所おくえつザウルス

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			ホールや和室、調理場等を利用したり、併設されている学校の体育館も使用している	
	2	職員の配置数は適切である	○				
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○				
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			目標設定、計画を行い、実施し反省振り返りをして日々の支援や活動につなげている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			コロナの影響で休校が明けた際にアンケートを行い保護者の意向や困り感を把握し業務改善につなげている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○				令和2年12月HPIにて公開
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		来年度以降の実施を検討中。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			事業所での研修や外部の研修に参加し資質や専門性を高める機会を確保している。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			日々の行動観察等でのアセスメントをもとに個別のケース会議を定期的に行い、支援計画につなげた。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している			○	標準化されたアセスメントツールは使用していないが、日々の行動観察や記録を基に適応行動等の状況を把握するようにしている。	今後、標準化されたアセスメントツールの導入の必要性を考え、研修に参加しツールを使用できる職員を育成していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			複数人で活動を立案しすすめている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			複数の分野の活動を組み立て提供している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○				
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			学年や障がい等に応じて、集団活動による社会性の発達や、個別でのライフスキルの獲得などを目標して計画を作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○				

関係機関や保護者との連携	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○		支援終了後と翌日の朝に振り返りと情報共有を行い、随時ケース会議を行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			日々の様子や行動の記録を基にデータ化したりすることで客観的に検証し支援につなげている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			自立支援や創作、余暇の提供などを組み合わせ合わせて支援や活動を行っている。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○			特別支援学校に併設しており、学校の情報や利用児の日々の様子を細かく連絡、共有している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		来年度の受け入れに向けて、事業所の見学を行ったり、主治医との連絡体制の整備を現在進めている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			移行支援を行い情報共有、相互理解に努めている。また事前にこども園や児童発達支援に見学に行き様子を見たり情報を共有している。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			保護者の了承ももらいながら情報提供し、スムーズに移行できるようにしている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		発達障害者支援センター等と連携し、今後必要に応じて助言や研修の機会を作っていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○	利用児や保護者の方の意向を聞きながらニーズがあれば立案していく。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			連絡ノートや送迎時等に口頭でその日の様子や最近気になる事等を伝えあい共通理解を図っている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		毎年保護者座談会を開催し、卒業生の保護者も招きながら自身の経験等を話していただく機会を設けていたが、今年度はコロナの為実施できなかった。別の機会等も考えながら、今後ペアトレ等の研修にも参加し、保護者に対する支援の充実を図っていく。

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			年に一度運営規定や利用者負担等についての説明の機会を設けている。また支援の内容や狙いもその際に説明している。		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			ノート等も活用しながら悩み等を聞きその都度寄り添い一緒に考えている。		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○				年2回保護者座談会と年1回親子交流会を企画し保護者同士の関わりの場を提供していたが、コロナの為今年度は実施できなかった。今後ニーズがあればコロナ禍でもできるものを計画していく。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				苦情対応マニュアルや第三者委員を設置し、苦情があった場合迅速且つ適切に対応できるようにしている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○			コロナの影響で活動や行事を中止、縮小し、定期的に会報を発行することができなかったが、不定期で今後の予定や連絡体制の情報、利用児の日々の様子を個別で発信した。	
	35	個人情報に十分注意している	○				個人情報マニュアルを作成しそれに基づいて個人情報の取り扱いを行っている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○					
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○			
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○					
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○				定期的に(年2回)避難訓練を行い、消防署の指導も受けている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○				虐待をテーマにした研修を年1回以上行っている。また自分たちの支援を振り返る機会を作っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○				保護者の了解を得て、個別支援計画書に記載しマニュアルに沿って対応している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○				保護者に情報を得ながら、対応している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○					